

令和5年5月食品ロス実態調査報告書
秋田市食品ロス実態調査報告書

令和5年7月11日発行

1 実施概要

■実施日時	令和5年5月25日（木）、26日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター
■作業時間	8：30～17：00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ13名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査資料	<ul style="list-style-type: none">・表記調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【5月25日】 中央（檜山11袋）、東部（東通10袋）、西部（新屋元町又は日吉町5袋）、南部（御所野8袋）、北部（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和（河辺4袋） 【5月26日】 中央（川尻6袋、大町6袋）、東部（添川4袋、旭川4袋）、西部（新屋勝平町6袋）、南部（上北手8袋）、北部（飯島12袋）、河辺・雄和（雄和4袋）・調査資料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約118kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重量を計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手付かず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表1）、6地区の100袋の合計重量は、361.4kg、1袋あたりの平均重量は約3.6kgであった。地域別に見ると、①中央は23袋で70.8kg、②東部は18袋で62.8kg、③西部は11袋で47.6kg、④南部は16袋で63.4kg、⑤北部は24袋で95.9kg、⑥河辺・雄和は8袋で21.0kgであった。

図表1 調査対象とした試料概要（秋田市）

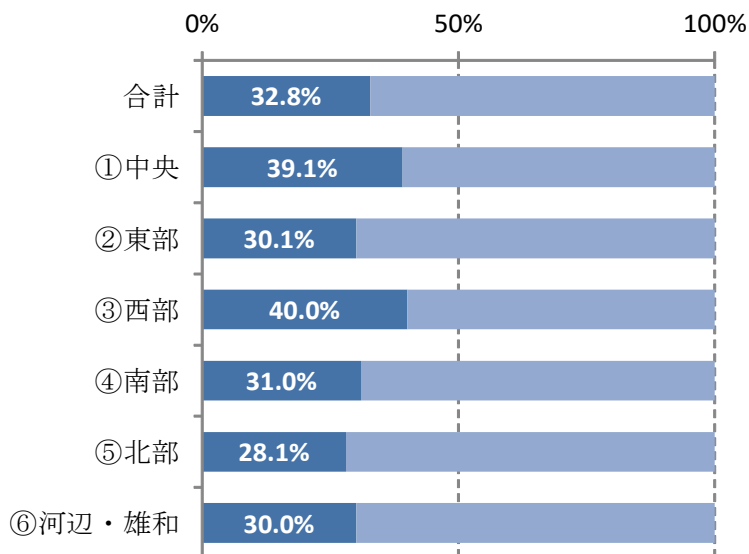
	袋数（個）	重量（kg）	容量（L）	袋あたり	
				重量（kg）	容量（L）
合計	100	361.4	3,525	3.6	35.3
① 中央	23	70.8	760	3.1	33.0
② 東部	18	62.8	615	3.5	34.2
③ 西部	11	47.6	400	4.3	36.4
④ 南部	16	63.4	530	4.0	33.1
⑤ 北部	24	95.9	915	4.0	38.1
⑥ 河辺・雄和	8	21.0	305	2.6	38.1

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表2）、6地区の合計割合では、32.8%となっている。

地域別に見ると、③西部が最も高く40.0%、次いで①中央の39.1%、④南部の31.0%、②東部の30.1%、⑥河辺・雄和の30.0%、⑤北部の28.1%となっている。

図表2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C (=B/A)	食品廃棄物以外 D (=1-C)
合計	361.40	118.43	32.8%	67.2%
①中央	70.80	27.67	39.1%	60.9%
②東部	62.76	18.87	30.1%	69.9%
③西部	47.64	19.06	40.0%	60.0%
④南部	63.36	19.63	31.0%	69.0%
⑤北部	95.87	26.90	28.1%	71.9%
⑥河辺・雄和	20.97	6.30	30.0%	70.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

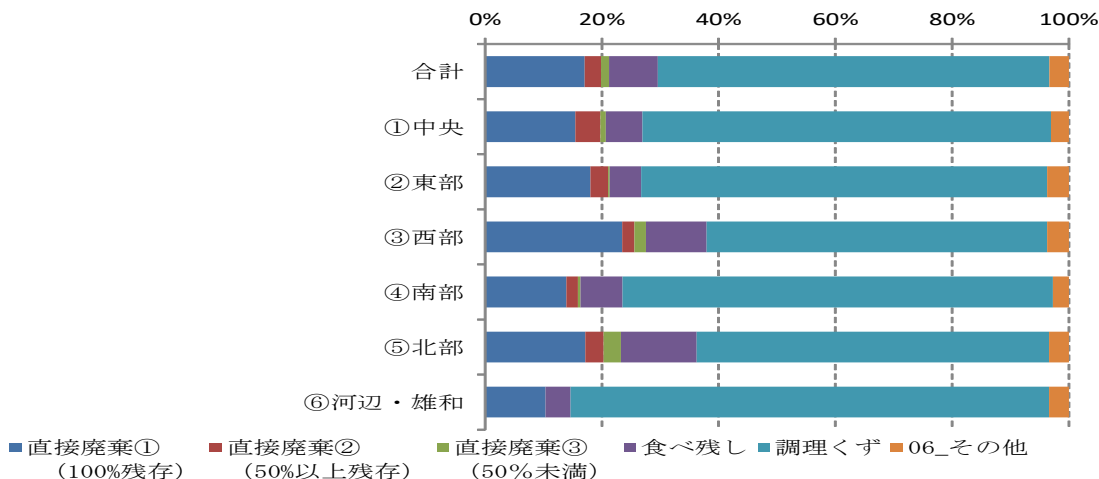
食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計割合では29.6%となっている。

地区別に見ると③西部が最も高く38.0%、次いで⑤北部の36.2%、①中央の27.0%、②東部の26.7%、④南部の23.5%、⑥河辺・雄和の14.6%となっている。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計割合では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち17.0%を占めており、③西部で23.5%と高く、次いで②東部が18.0%、⑤北部が17.2%、①中央が15.5%、④南部が13.9%、⑥河辺・雄和が10.3%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計割合では8.4%となっている。⑤北部が13.0%と高く、次いで③西部が10.4%であり、⑥河辺・雄和が最も低く4.3%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	29.6%	17.0%	2.8%	1.3%	8.4%
①中央	27.0%	15.5%	4.3%	0.9%	6.3%
②東部	26.7%	18.0%	3.0%	0.3%	5.4%
③西部	38.0%	23.5%	2.1%	2.0%	10.4%
④南部	23.5%	13.9%	1.9%	0.5%	7.2%
⑤北部	36.2%	17.2%	3.1%	3.0%	13.0%
⑥河辺・雄和	14.6%	10.3%	0.0%	0.0%	4.3%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

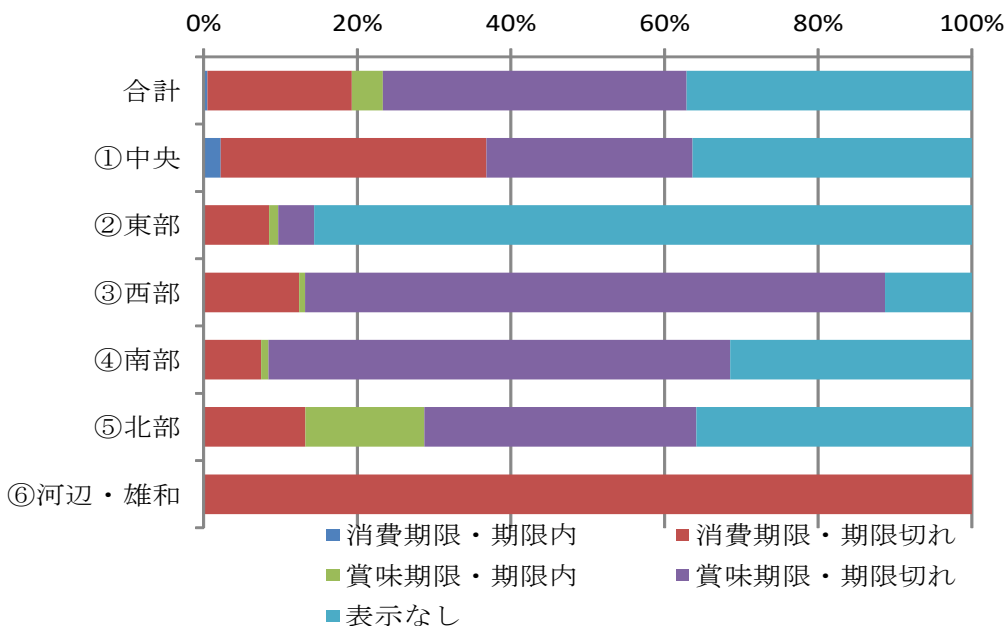
直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計割合では「賞味期限（期限切れ）」が最も多く39.5%であり、消費期限の表示があったものは19.4%（期限内が0.6%、期限切れが18.8%）、賞味期限の表示があったものは43.5%（期限内が4.0%、期限切れが39.5%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち0.6%、地区別では、②中央地区のみで2.9%であった。

「期限切れ」については、⑥河辺・雄和地区で最も高く100%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち4.0%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く15.5%であった。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



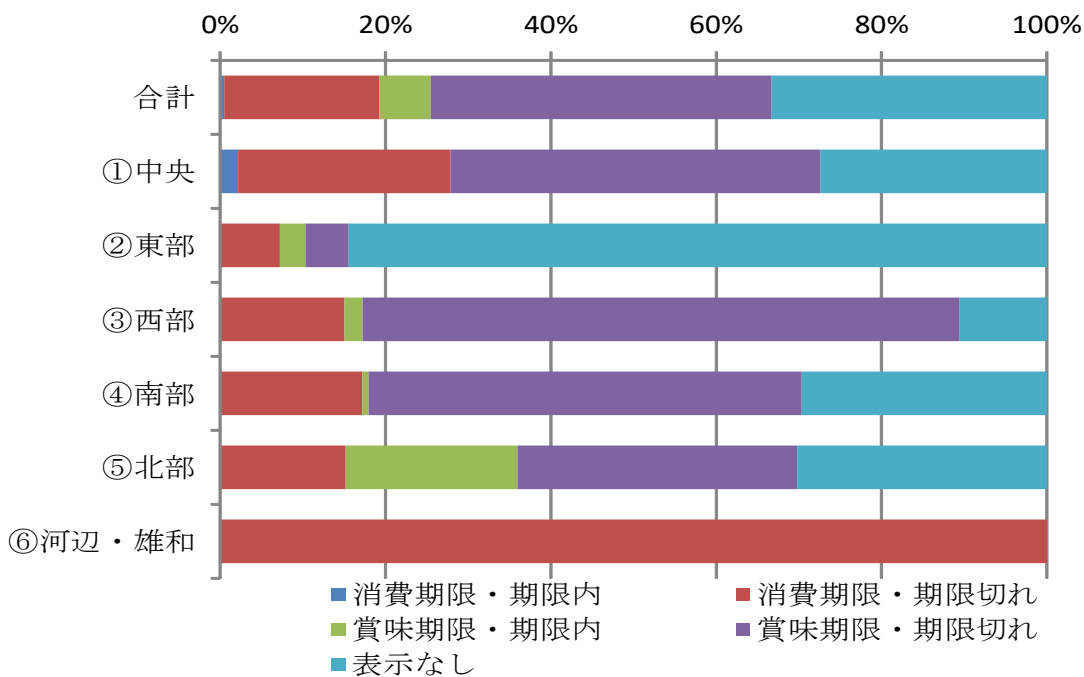
	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.6%	18.8%	4.0%	39.5%	37.1%
①中央	2.9%	34.3%	0.0%	26.6%	36.1%
②東部	0.0%	8.5%	1.2%	4.7%	85.6%
③西部	0.0%	12.4%	0.8%	75.5%	11.3%
④南部	0.0%	7.5%	0.9%	60.1%	31.4%
⑤北部	0.0%	13.2%	15.5%	35.4%	35.9%
⑥河辺・雄和	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「賞味期限（期限切れ）」が最も多く41.3%であり、消費期限の表示があったものは19.2%（期限内0.5%、期限切れ18.7%）、賞味期限の表示があったものは47.5%（期限内6.2%、期限切れ41.3%）となっている。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち6.2%となっている。地区別に見ると⑤北部が最も高く20.8%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.5%	18.7%	6.2%	41.3%	33.3%
①中央	2.2%	25.7%	0.0%	44.8%	27.4%
②東部	0.0%	7.2%	3.1%	5.2%	84.5%
③西部	0.0%	15.0%	2.2%	72.2%	10.6%
④南部	0.0%	17.2%	0.8%	52.4%	29.6%
⑤北部	0.0%	15.2%	20.8%	33.9%	30.2%
⑥河辺・雄和	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和4年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると48.1g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が34.5g/人/日、食べ残しが13.6g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

